

せんのまやうげんまもつけのかみまきしまん上す。こ筆御ふで三ついまん上す。七日○中そ
つどのより三色三かまゐる。八日○中めうほうゐん殿より御たるまゐる。とくせんゐん御れ
い申御むまたちまゐる。○中ふしみどのより御たるまゐる。上せうゐんかれいの御あふぎま
上申さる。九日○中二そんゐん御れい申十帖。べざいてんの御ふだまゐる。せんりん寺同十
帖一本まゐる。申つぎ三でうさい相中將。ちおん寺御れい申一そく一本まゐる。申つぎひろはし
大納言まやうげゐん。大でう寺。こんかい寺。一そく一本にて御れい申。申つぎまでのこうぢ中納
言。十一日○中くわんまゆ寺の門跡より三色三かまゐる。けんかうゐんより三色三かまゐる。
〔視聽草七集四〕寛永甲申正月御湯殿の記。寛永廿一年正月一日。大をかみの、守野々山たんど
の守御たちをりかみまん上。○中院の御所。まゐんの御所。女院の御所へ。ながはし御つかひに
まゐらせらる。ゐんの御所へ御あふぎまろかね甘まいまゐらせらる。まゐんの御所へもま
ろかね甘まいまゐらせらる。女院の御所へもまろかね甘まいまゐらせらる。宮々の御かたへは御こ
きいた御こきのこまゐる。いま宮の御方ひでの宮の御かた。とよの宮の御かたも御あふぎま
る。○中ごん大なごんどの御まゐりにて。女院の御所より五色御たる十か参。ごん大なごん殿
御わたくしより杉はら十でう。ひぢりめん一卷まん上御まやくにて。てんはいたぶ。○中二日
八でうどの、御内ぎより杉はら三十でう。まろりんす一まき参。九でうまん所よりすぎはら十
帖御するひろ一ほん参。三日。ねんとうの御まうぎとて。一ゐどのより御たる三いろ三かまゐ
る。にしきのこうぢどのより御たるざかな三色一か参。かでのこうぢ殿より三いろ三かまゐる。
梅がかうじどのよりも三色三か参。こさいまやうどのより三色三か参。まん中將どのよりも三
色一か参。少將殿より三色一かまゐる。治部卿どのより三色一か参。まんさい相殿より三色一か
参。新院の御所の御めのとより三色二かまゐる。すはうどの。みまさか殿。いづもどの。より二色一